

景況調査

報告書

No. 98

令和5年1月～3月
令和5年4月～6月

実績
見通し



蒲郡商工会議所
中小企業相談所

令和4年度第4四半期(令和5年1月～3月)景況調査

1. 調査時点 令和5年4月1日～4月25日

2. 調査対象

(1) 対象地区 蒲郡市内
 (2) 対象(回答)企業 106 [99 企業、7 団体] 三河織物工業(協)、中部繊維ローブ工業(協)、蒲郡市上下水道工事(協)、蒲郡建設業(協)、三河繊維産元(協)、蒲郡地区旅館組合、蒲郡鉄工会

3. 調査方法

聞き取り調査によるアンケート調査

4. 回答企業の内訳

業種	製造業	建設業	卸売業	小売業	サービス業	運輸通信業	全業種
合計	49 (3)	8 (2)	14 (1)	18	9 (1)	8	106 (7)

※ () は団体

5. 概況

全業種総合判断DI値(当期実績)は、前期比では-15.0、前期実績(-15.4)に比較すると0.4ポイントと横バイの傾向が見られ、前年同期比では、-6.6、前期実績(-22.1)に比較すると15.5ポイントと上昇の傾向が見られた。売上DI値は、前期比で-19.8、前期実績(2.9)と比較すると-22.7ポイントと下降の傾向が見られた。収益DI値は、前期比で-32.1、前期実績(-21.2)と比較すると-10.9ポイントと下降の傾向が見られた。総合判断来期見通しは1.8、今期の実績(全業種(当期実績)前期比-15.0)と比較すると16.8ポイントと上昇の傾向が見られた。

「製造業」のうち食料品は取引先にもよるが売上が増加しているケースでも原材料・コスト増で利幅が圧迫されている。織物は売上は横バイ～増加でもコスト増で利幅が圧迫。小売店頭向けの荷動きが鈍い。漁網・ローブは生産量は前年同月で5%前後の減少。販売数量・金額は1～2月は5～10%減少も、3月は10%弱増加。鉄工のうち日本工作機械工業会の受注総額は1月1,290億円、2月1,240億円、3月1,410億円。対前年比で内需・外需とも1割程度減少に転じた。当地区でも同様の傾向にある。トヨタ国内日当たり生産は2月以降から回復傾向で1万3千台強で推移。部品不足に改善の兆しも、本格的な稼働回復にはまだ到っていない状況。化学工業は中国のゼロコロナ政策は解除されたが、資源高や経済全体の低迷もあり、横バイの状況となった。プラスチックはコロナ以降の需要低迷が続く、海外需要の回復が遅れている印象。

「建設業」は年度末の公共工事関係は順調に進んだ。一方で、需要はあるが人手不足(特に技術者)により見送るケースも出ている。

「卸売業」のうち、繊維卸は<産業資材>車両用基布は商品により、回復傾向・停滞が分かれた。資材全体は動き始めているが、未だ停滞が続く商品もある。<インテリア>昨年比に比べ厳しい状況。特に3月は新生活需要で商品の動きが良い時期だが、3月後半以外は昨年より悪い状況。<アパレル>原料高騰による消費の冷え込みが影響している。

「小売業」はインフレで消費意欲が抑制+コストアップの連続で採算が悪化。全国旅行支援等で観光需要が急回復し一部食材で高騰するものも。飲食は個人客の動きはコロナ前の水準に近づき、団体客・宴会の動きも少しずつ出始めてきたが、食材・電気ガス・人件費の増加が利幅を圧迫している。石油等その他小売はインフレ対策に伴う世界経済の減速で需要が伸び悩む一方、供給超過が都築原油価格(WTI期近物)はやや落ち着きつつあり、ロシアのウクライナ進行前より低い70ドル台前後で推移。

「サービス業」のうち旅館関係は全国旅行支援やマスク着用緩和等で旅行需要は戻りつつある。ただ、1～3月期の宿泊者数は昨年比で100%を超える月が続くも、2019年比(コロナ以前)では50%強に留まる。春休み、大河ドラマ「どうする家康」による宿泊利用もあったが、新年会・歓送迎会等、団体客の動きは依然伸び悩み。また、三谷温泉で初のアートイベント「ととのう温泉美術館」では日帰客含む観光利用があった。

設備投資状況は、40事業所(60件)で設備投資が実施され「生産設備(35%)」等に投資された。来期は37事業所(55件)が「生産設備(38.2%)」等の設備投資を計画している。

経営上の問題点は、売上の停滞・減少、原材料(燃料)高、利幅の縮小、人手不足、人件費の増加、が項目別で上位を占めている。

当地区において 令和4年度第4四半期の総合判断は、前年同期比・前期比でマイナス幅が縮小し、来期見通しではプラスに転じた。傾向として売上額は増加してもコスト高で採算が圧迫されるケースが目立った。業種毎では、建設・飲食・旅館等が好調、食料品製造・繊維卸等では厳しい状況が伝えられた。経営上の問題点では前回調査と同等の傾向となった。インフレによる消費意欲の抑制を懸念する事も多くあり、地方における個人消費停滞に加えた景気低迷の状況が続いている。

全業種(当期実績)

(DI 単位:%)

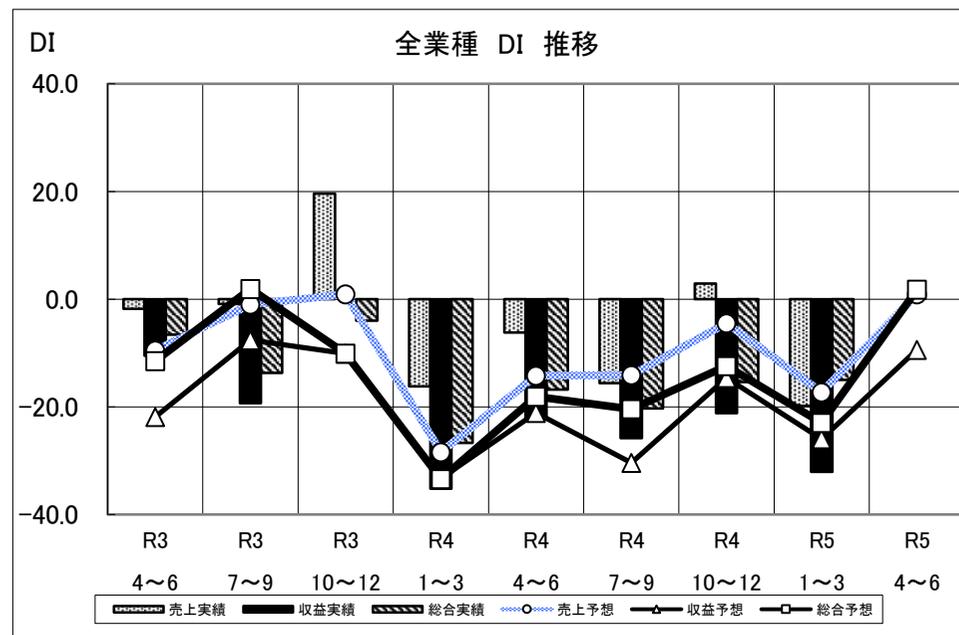
<全業種 各項目期別推移>

(DI 単位:%)

	前年同期比 令和4年1月～3月 に比べて	前期比 令和4年10月～12月 に比べて	来期見通し 令和5年4月～6月 の見通し		売上		収益		総合判断		
					前年同期比	前期比	前年同期比	前期比	前年同期比	前期比	来期見通し
①生産額・売上額	-3.8	-19.8	0.9	R4.1～3月実績	-14.3	-16.2	-23.8	-35.2	-17.1	-26.7	-18.1
②製品・商品在庫	-21.1	-17.3	-7.7	R4.4～6月実績	1.7	-6.2	-23.9	-22.2	-15.0	-16.8	-20.4
③資金繰り	-13.2	-17.0	-9.5	R4.7～9月実績	-5.6	-15.6	-31.5	-25.8	-21.4	-20.3	-12.4
④採算(収益)	-11.3	-32.1	-9.4	R4.10～12月実績	-11.6	2.9	-36.5	-21.2	-22.1	-15.4	-23.0
⑤従業員数(含む臨時・パート)	-2.8	-2.8	6.7	R5.1～3月実績	-3.8	-19.8	-11.3	-32.1	-6.6	-15.0	1.8
⑥貴社の業況(総合判断)	-6.6	-15.0	1.8								

[総合判断]

業種	前年同期比	前期比	見通し	業種	前年同期比	前期比	見通し
全業種				卸売業			
				(繊維卸)			
製造業				小売業			
(食料品)				(飲食)			
(織物)				(石油等その他小売)			
(漁網・ロープ)				サービス業			
(鉄工)				(旅館)			
(化学・プラスチック)				運輸通信業			
建設業				(旅客・貨物輸送・水運)			



<業況判断DIの推移>

	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月見通し
売上	-1.8	-0.9	19.6	-16.2	-6.2	-15.6	2.9	-19.8	0.9
収益	-10.5	-19.3	0.0	-35.2	-22.2	-25.8	-21.2	-32.1	-9.4
総合	-6.6	-13.7	-4.0	-26.7	-16.8	-20.3	-15.4	-15.0	1.8

◎DI (デフュージョン・インデックス 業況判断指数)について

DIは景気が上向きか、下向きかを表す指数である。

DI(%)=増加・良好などの割合-減少・悪化などの割合

(注)生産額・売上額 :DI=(増加)-(減少)
 製品・商品在庫 :DI=(減少)-(増加)
 資金繰り :DI=(好転)-(悪化)

採算(収益) :DI=(上昇)-(下降)
 従業員数 :DI=(増加)-(減少)
 業況(総合判断):DI=(好転)-(悪化)

DIが0より大 ⇒ 景気上向き
 DIが0 ⇒ 景気横ばい
 DIが0より小 ⇒ 景気下向き

(総合判断のDIの目安)

DI 50%以上 DI 6~49% DI 5~-5%



DI -6~-49% DI -50%以下



6. 業種別報告

製造業

売上DI値は-14.3、前期実績(10~12月期-15.7)に比して1.4ポイントの横バイ、収益DI値は-36.7、前期実績(10~12月期-35.3)に比して-1.4ポイントの横バイ、総合判断DI値は-10.2、前期実績(10~12月期-33.4)に比して23.2ポイントの上昇となった。

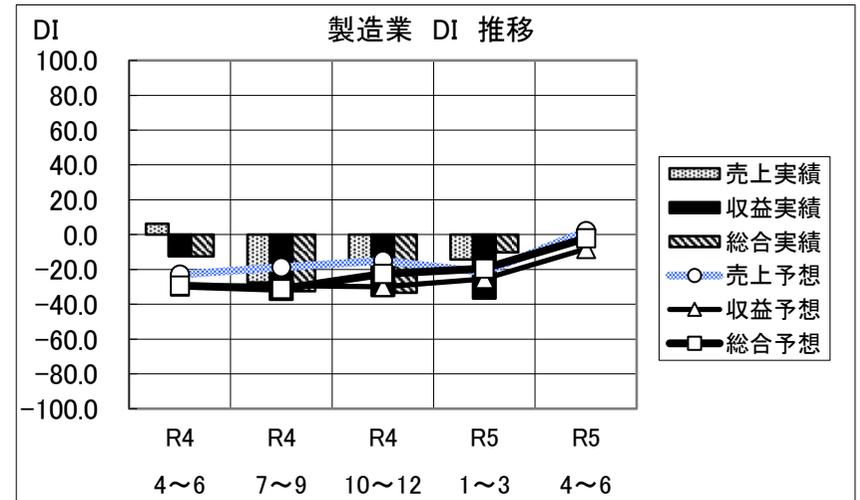
向こう3カ月の見通し

売上DI値は2.0ポイントの横バイ、収益DI値は-8.2ポイントの下降、総合判断DI値は-2.1ポイントの横バイとなっている。

製造業

(DI 単位:%)

	前年同期比 令和4年1月~3月 に比べて	前期比 令和4年10月~12月 に比べて	来期見通し 令和5年4月~6月 の見通し
①生産額・売上額	-8.1	-14.3	2.0
②製品・商品在庫	-20.4	-20.4	-10.2
③資金繰り	-20.4	-20.4	-12.2
④採算(収益)	-18.4	-36.7	-8.2
⑤従業員数(含む臨時・パート)	0.0	-2.0	8.2
⑥貴社の業況(総合判断)	-8.2	-10.2	-2.1



<業況判断DIの推移>

	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月見通し
売上	6.2	-27.5	-15.7	-14.3	2.0
収益	-12.5	-37.5	-35.3	-36.7	-8.2
総合	-12.5	-32.5	-33.4	-10.2	-2.1

[食料品]

売上DI値は-100.0、前期実績(10~12月期20.0)に比して-120.0ポイントの下降、収益DI値は-100.0、前期実績(10~12月期-40.0)に比して-60.0ポイントの下降、総合判断DI値は-80.0、前期実績(10~12月期-40.0)に比して-40.0ポイントの下降となった。取引先にもよるが売上が増加しているケースでも原材料・コスト増で利幅が圧迫されている。

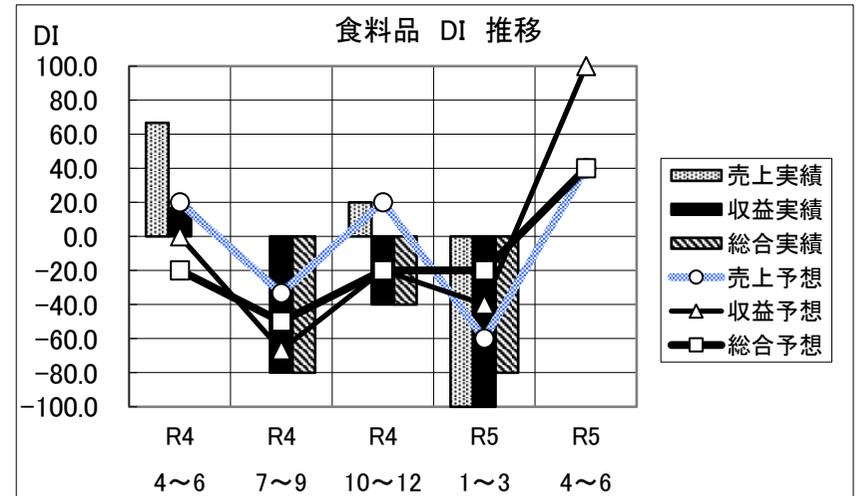
向こう3カ月の見通し

売上DI値は40.0ポイントの上昇、収益DI値は100.0ポイントの上昇、総合判断DI値は40.0ポイントの上昇となっている。ポストコロナの動きが本格化し、売上・採算ともに上昇が見込まれる。

(食料品)

(DI 単位:%)

	前年同期比 令和4年1月~3月 に比べて	前期比 令和4年10月~12月 に比べて	来期見通し 令和5年4月~6月 の見通し
①生産額・売上額	20.0	-100.0	40.0
②製品・商品在庫	-60.0	-60.0	0.0
③資金繰り	-40.0	-60.0	60.0
④採算(収益)	-40.0	-100.0	100.0
⑤従業員数(含む臨時・パート)	20.0	-20.0	-20.0
⑥貴社の業況(総合判断)	-20.0	-80.0	40.0



<業況判断DIの推移>

	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月見通し
売上	66.7	0.0	20.0	-100.0	40.0
収益	16.7	-80.0	-40.0	-100.0	100.0
総合	0.0	-80.0	-40.0	-80.0	40.0

【織物】

売上DI値は-25.0、前期実績(10~12月期-66.7)に比して41.7ポイントの上昇、収益DI値は-50.0、前期実績(10~12月期-100.0)に比して50.0ポイントの上昇、総合判断DI値は0.0、前期実績(10~12月期-100.0)に比して100.0ポイントの上昇となった。売上は横バイ~増加でもコスト増で利幅が圧迫。小売店頭向けの荷動きが鈍い。

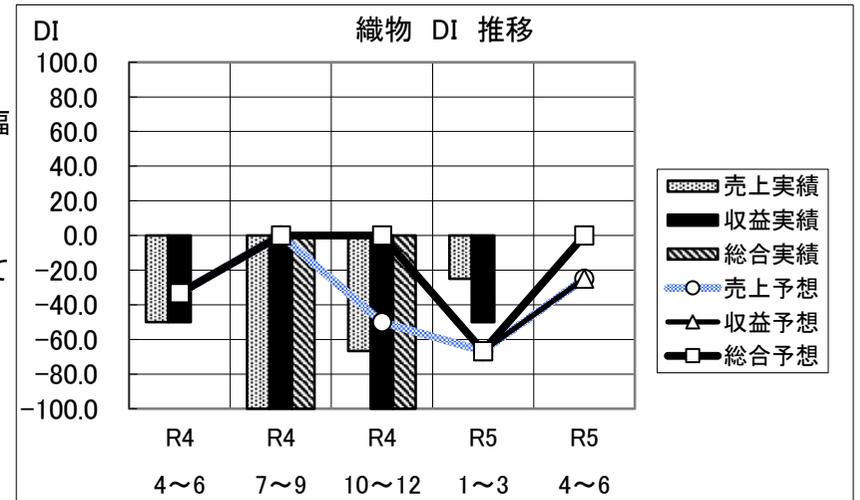
向こう3カ月の見通し

売上DI値は-25.0ポイントの下降、収益DI値は-25.0ポイントの下降、総合判断DI値は0.0ポイントの横バイとなっている。更なるコストアップが進むが、稼働率・売上の伸びや価格転嫁が比例して進むか不透明な状況。

(織物)

(DI 単位:%)

	前年同期比 令和4年1月~3月 に比べて	前期比 令和4年10月~12月 に比べて	来期見通し 令和5年4月~6月 の見通し
①生産額・売上額	0.0	-25.0	-25.0
②製品・商品在庫	-25.0	-25.0	0.0
③資金繰り	-25.0	-25.0	-50.0
④採算(収益)	-50.0	-50.0	-25.0
⑤従業員数(含む臨時・パート)	0.0	0.0	-25.0
⑥貴社の業況(総合判断)	0.0	0.0	0.0



<業況判断DIの推移>

	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月見通し
売上	-50.0	-100.0	-66.7	-25.0	-25.0
収益	-50.0	-100.0	-100.0	-50.0	-25.0
総合	0.0	-100.0	-100.0	0.0	0.0

【漁網・ロープ】

売上DI値は60.0、前期実績(10~12月期-37.5)に比して97.5ポイントの上昇、収益DI値は-20.0、前期実績(10~12月期-37.5)に比して17.5ポイントの上昇、総合判断DI値は40.0、前期実績(10~12月期-37.5)に比して77.5ポイントの上昇となった。生産量は前年同月で5%前後の減少。販売数量・金額は1~2月は5~10%減少も、3月は10%弱増加。

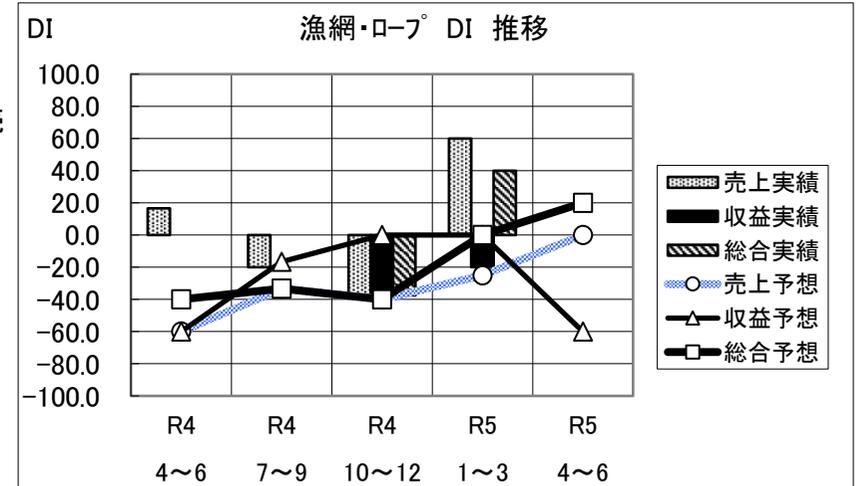
向こう3カ月の見通し

売上DI値は0.0ポイントの横バイ、収益DI値は-60.0ポイントの下降、総合判断DI値は20.0ポイントの上昇となっている。漁業、造船、船舶は前年同水準。産業資材・その他は10~15%減少の見込み。

(漁網・ロープ)

(DI 単位:%)

	前年同期比 令和4年1月~3月 に比べて	前期比 令和4年10月~12月 に比べて	来期見通し 令和5年4月~6月 の見通し
①生産額・売上額	20.0	60.0	0.0
②製品・商品在庫	-20.0	-40.0	-20.0
③資金繰り	0.0	-20.0	-20.0
④採算(収益)	0.0	-20.0	-60.0
⑤従業員数(含む臨時・パート)	-20.0	-20.0	20.0
⑥貴社の業況(総合判断)	40.0	40.0	20.0



<業況判断DIの推移>

	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月見通し
売上	16.6	-20.0	-37.5	60.0	0.0
収益	0.0	0.0	-37.5	-20.0	-60.0
総合	0.0	0.0	-37.5	40.0	20.0

[鉄工]

売上DI値は-8.7、前期実績(10~12月期-21.7)に比して13.0ポイントの上昇、収益DI値は-21.7、前期実績(10~12月期-30.4)に比して8.7ポイントの上昇、総合判断DI値は-4.4、前期実績(10~12月期-30.5)に比して26.1ポイントの上昇となった。日本工作機械工業会の受注総額は1月1,290億円、2月1,240億円、3月1,410億円。対前年比で内需・外需とも1割程度減少に転じた。当地区でも同様の傾向にある。トヨタ国内日当たり生産は2月以降から回復傾向で1万3千台強で推移。部品不足に改善の兆しも、本格的な稼働回復にはまだ到っていない状況。

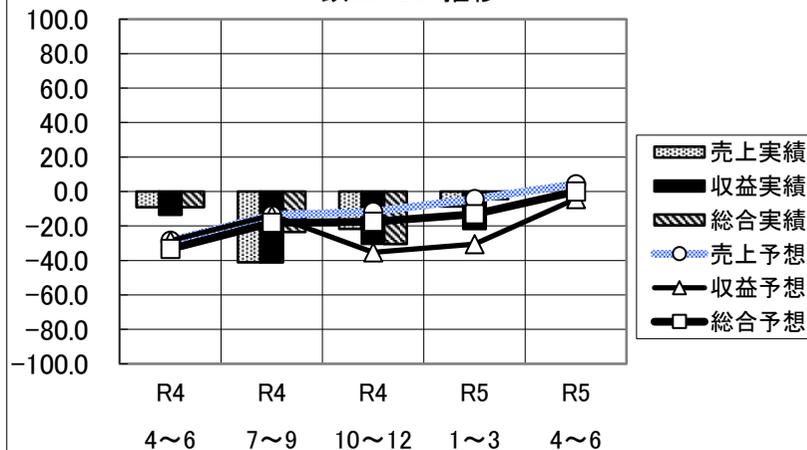
向こう3カ月の見通し

売上DI値は4.3ポイントの横バイ、収益DI値は-4.3ポイントの横バイ、総合判断DI値は0.0ポイントの横バイとなっている。

(鉄工) (一般機械器具・輸送用機械・精密機械) (DI 単位:%)

	前年同期比 令和4年1月~3月 に比べて	前期比 令和4年10月~12月 に比べて	来期見通し 令和5年4月~6月 の見通し
①生産額・売上額	-17.4	-8.7	4.3
②製品・商品在庫	-21.7	-17.4	-17.4
③資金繰り	-17.4	-8.7	-13.1
④採算(収益)	-8.7	-21.7	-4.3
⑤従業員数(含む臨時・パート)	0.0	4.3	17.4
⑥貴社の業況(総合判断)	-13.0	-4.4	0.0

鉄工 DI 推移



<業況判断DIの推移>

	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月見通し
売上	-9.1	-41.1	-21.7	-8.7	4.3
収益	-13.6	-41.2	-30.4	-21.7	-4.3
総合	-9.1	-23.5	-30.5	-4.4	0.0

[化学・プラスチック]

売上DI値は25.0、前期実績(10~12月期16.6)に比して8.4ポイントの上昇、収益DI値は0.0、前期実績(10~12月期0.0)に比して0.0ポイントの横バイ、総合判断DI値は0.0、前期実績(10~12月期-33.3)に比して33.3ポイントの上昇となった。<化学>中国のゼロコロナ政策は解除されたが、資源高や経済全体の低迷もあり、横バイの状況となった。<プラスチック>コロナ以降の需要低迷が続く、海外需要の回復が遅れている印象。

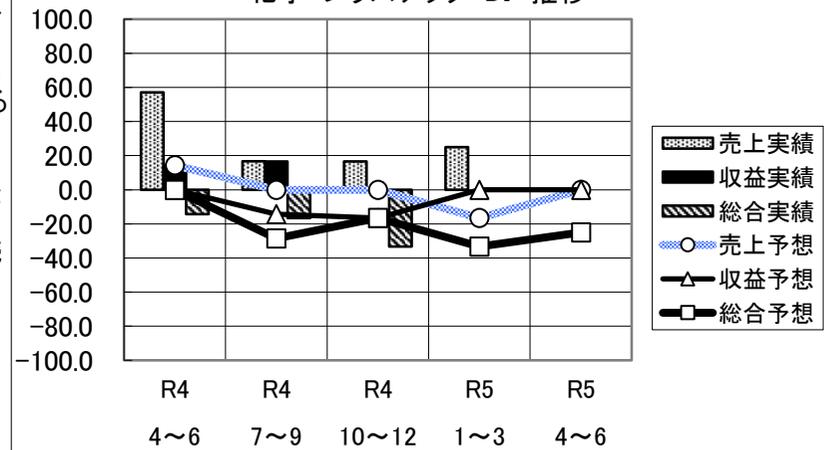
向こう3カ月の見通し

売上DI値は0.0ポイントの横バイ、収益DI値は0.0ポイントの横バイ、総合判断DI値は-25.0ポイントの下降となっている。<化学>引き続き、資源高や金融引き締めの影響下にあり経済全体の動きは鈍い状況が続く見込み。<プラスチック>原材料不足・インフレ傾向は落ち着きつつあるが、今期同様の厳しい状況が続く。

(化学・プラスチック) (DI 単位:%)

	前年同期比 令和4年1月~3月 に比べて	前期比 令和4年10月~12月 に比べて	来期見通し 令和5年4月~6月 の見通し
①生産額・売上額	-25.0	25.0	0.0
②製品・商品在庫	0.0	0.0	0.0
③資金繰り	-25.0	0.0	-25.0
④採算(収益)	-25.0	0.0	0.0
⑤従業員数(含む臨時・パート)	-25.0	0.0	0.0
⑥貴社の業況(総合判断)	-25.0	0.0	-25.0

化学・プラスチック DI 推移



<業況判断DIの推移>

	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月見通し
売上	57.1	16.7	16.6	25.0	0.0
収益	14.3	16.6	0.0	0.0	0.0
総合	-14.3	-16.6	-33.3	0.0	-25.0

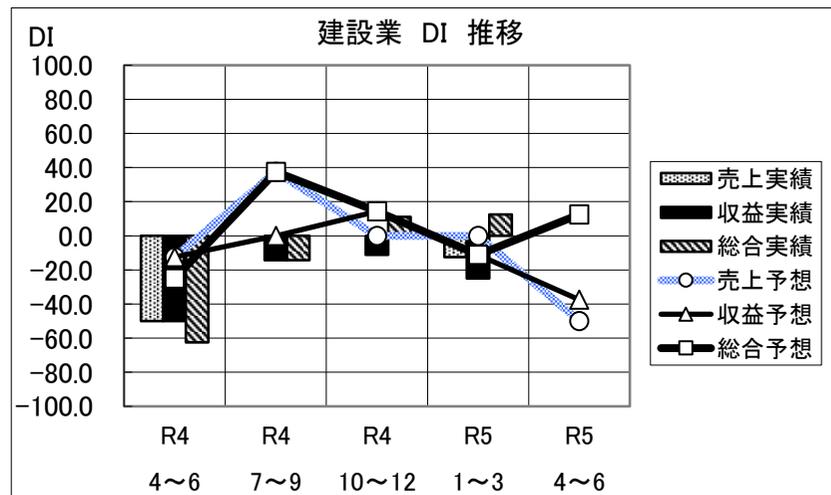
建設業

売上DI値は-12.5、前期実績(10~12月期0.0)に比して-12.5ポイントの下降、収益DI値は-25.0、前期実績(10~12月期-11.1)に比して-13.9ポイントの下降、総合判断DI値は12.5、前期実績(10~12月期11.1)に比して1.4ポイントの横バイとなった。年度末の公共工事関係は順調に進んだ。一方で、需要はあるが人手不足(特に技術者)により見送るケースも出ている。

向こう3カ月の見通し

売上DI値は-50.0ポイントの下降、収益DI値は-37.5ポイントの下降、総合判断DI値は12.5ポイントの上昇となっている。公共工事・民間工事とも、順調な動きとなる見込み。

	前年同期比 令和4年1月~3月 に比べて	前期比 令和4年10月~12月 に比べて	来期見通し 令和5年4月~6月 の見通し
①生産額・売上額	-25.0	-12.5	-50.0
②製品・商品在庫	0.0	0.0	14.3
③資金繰り	0.0	-12.5	-25.0
④採算(収益)	-12.5	-25.0	-37.5
⑤従業員数(含む臨時・パート)	12.5	12.5	25.0
⑥貴社の業況(総合判断)	12.5	12.5	12.5



<業況判断DIの推移>

	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月見通し
売上	-50.0	0.0	0.0	-12.5	-50.0
収益	-50.0	-14.3	-11.1	-25.0	-37.5
総合	-62.5	-14.3	11.1	12.5	12.5

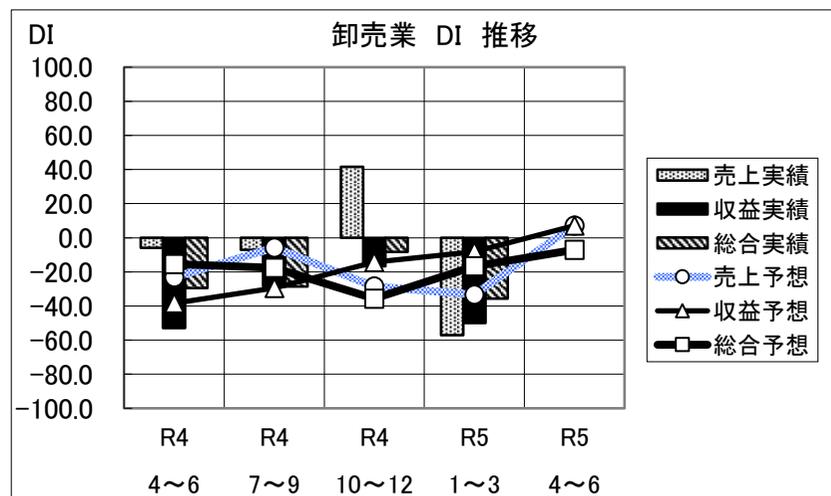
卸売業

売上DI値は-57.1、前期実績(10~12月期41.6)に比して-98.7ポイントの下降、収益DI値は-50.0、前期実績(10~12月期-16.7)に比して-33.3ポイントの下降、総合判断DI値は-35.7、前期実績(10~12月期-8.3)に比して-27.4ポイントの下降となった。

向こう3カ月の見通し

売上DI値は7.1ポイントの上昇、収益DI値は7.1ポイントの上昇、総合判断DI値は-7.1ポイントの下降となっている。

	前年同期比 令和4年1月~3月 に比べて	前期比 令和4年10月~12月 に比べて	来期見通し 令和5年4月~6月 の見通し
①生産額・売上額	-28.6	-57.1	7.1
②製品・商品在庫	-57.1	-50.0	-50.0
③資金繰り	-28.6	-21.4	-14.3
④採算(収益)	-35.7	-50.0	7.1
⑤従業員数(含む臨時・パート)	-21.4	-14.3	0.0
⑥貴社の業況(総合判断)	-42.9	-35.7	-7.1



<業況判断DIの推移>

	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月見通し
売上	-5.9	-7.1	41.6	-57.1	7.1
収益	-52.9	-28.6	-16.7	-50.0	7.1
総合	-29.5	-28.6	-8.3	-35.7	-7.1

【繊維卸】

売上DI値は-53.8、前期実績(10~12月期36.3)に比して-90.1ポイントの下降、収益DI値は-53.8、前期実績(10~12月期-27.3)に比して-26.5ポイントの下降、総合判断DI値は-38.5、前期実績(10~12月期-18.2)に比して-20.3ポイントの下降となった。<産業資材>車両用基布は商品により、回復傾向・停滞が分かれた。資材全体は動き始めているが、未だ停滞が続く商品もある。<インテリア>昨年比に比べ厳しい状況。特に3月は新生活需要で商品の動きが良い時期だが、3月後半以外は昨年より悪い状況。<アパレル>原料高騰による消費の冷え込みが影響している。

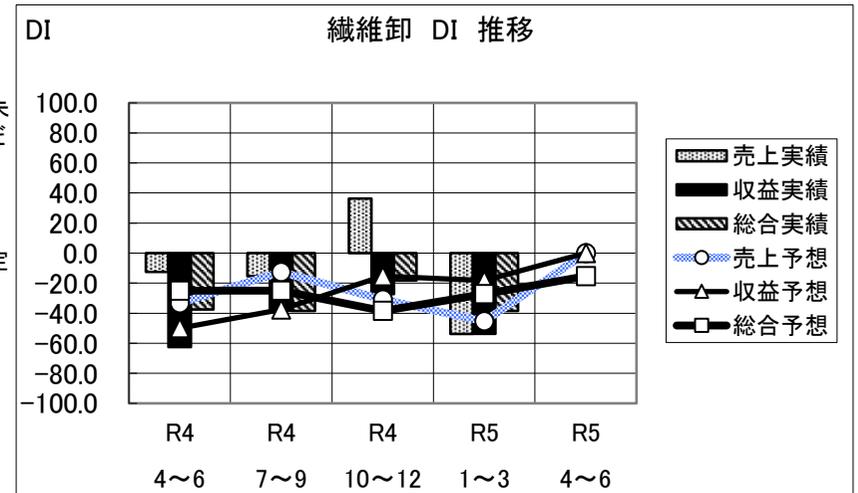
向こう3カ月の見通し

売上DI値は0.0ポイントの横バイ、収益DI値は0.0ポイントの横バイ、総合判断DI値は-15.4ポイントの下降となっている。<産業資材>車両用基布の急回復はないが徐々に回復基調へ。他の資材用途は、原材料・加工賃の高騰で価格改定を進めており苦戦を強いられる期間。<インテリア>3月同様に4月も厳しい状況が続き、5~6月にかけても大きな動きはない見込み。<アパレル>インバウンドによる消費押し上げ・需要増に期待したい。

(繊維卸)

(DI 単位:%)

	前年同期比 令和4年1月~3月 に比べて	前期比 令和4年10月~12月 に比べて	来期見通し 令和5年4月~6月 の見通し
①生産額・売上額	-38.5	-53.8	0.0
②製品・商品在庫	-53.8	-53.8	-53.8
③資金繰り	-30.8	-23.1	-15.4
④採算(収益)	-46.1	-53.8	0.0
⑤従業員数(含む臨時・パート)	-23.1	-15.4	0.0
⑥貴社の業況(総合判断)	-53.8	-38.5	-15.4



<業況判断DIの推移>

	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月見通し
売上	-12.5	-15.4	36.3	-53.8	0.0
収益	-62.5	-38.5	-27.3	-53.8	0.0
総合	-37.5	-38.5	-18.2	-38.5	-15.4

小売業

売上DI値は-11.1、前期実績(10~12月期21.5)に比して-32.6ポイントの下降、収益DI値は-27.7、前期実績(10~12月期-14.3)に比して-13.4ポイントの下降、総合判断DI値は-11.1、前期実績(10~12月期-7.2)に比して-3.9ポイントの横バイとなった。インフレで消費意欲が抑制+コストアップの連続で採算が悪化。全国旅行支援等で観光需要が急回復し一部食材で高騰するものも。

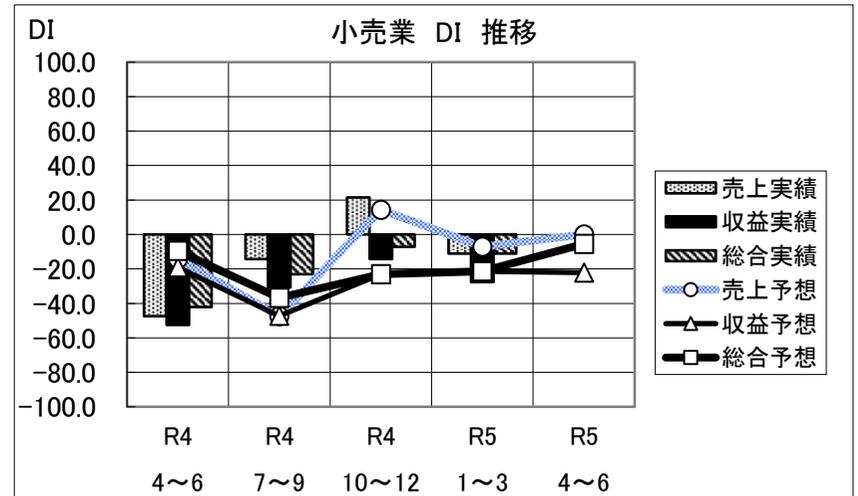
向こう3カ月の見通し

売上DI値は0.0ポイントの横バイ、収益DI値は-22.2ポイントの下降、総合判断DI値は-5.5ポイントの下降となっている。給料アップによる消費意欲増大に期待、商品の仕入れ価格の上昇が落ち着く事を願う。

小売業

(DI 単位:%)

	前年同期比 令和4年1月~3月 に比べて	前期比 令和4年10月~12月 に比べて	来期見通し 令和5年4月~6月 の見通し
①生産額・売上額	16.6	-11.1	0.0
②製品・商品在庫	0.0	0.0	11.1
③資金繰り	0.0	-16.7	-16.7
④採算(収益)	0.0	-27.7	-22.2
⑤従業員数(含む臨時・パート)	0.0	-5.5	0.0
⑥貴社の業況(総合判断)	5.5	-11.1	-5.5



<業況判断DIの推移>

	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月見通し
売上	-47.4	-14.3	21.5	-11.1	0.0
収益	-52.6	-30.8	-14.3	-27.7	-22.2
総合	-42.1	-23.1	-7.2	-11.1	-5.5

【飲食】

売上DI値は100.0、前期実績(10~12月期100.0)に比して0.0ポイントの横バイ、収益DI値は-33.4、前期実績(10~12月期-100.0)に比して66.6ポイントの上昇、総合判断DI値は33.3、前期実績(10~12月期0.0)に比して33.3ポイントの上昇となった。個人客の動きはコロナ前の水準に近づき、団体客・宴会の動きも少しずつ出始めてきたが、食材・電気ガス・人件費の増加が利幅を圧迫している。

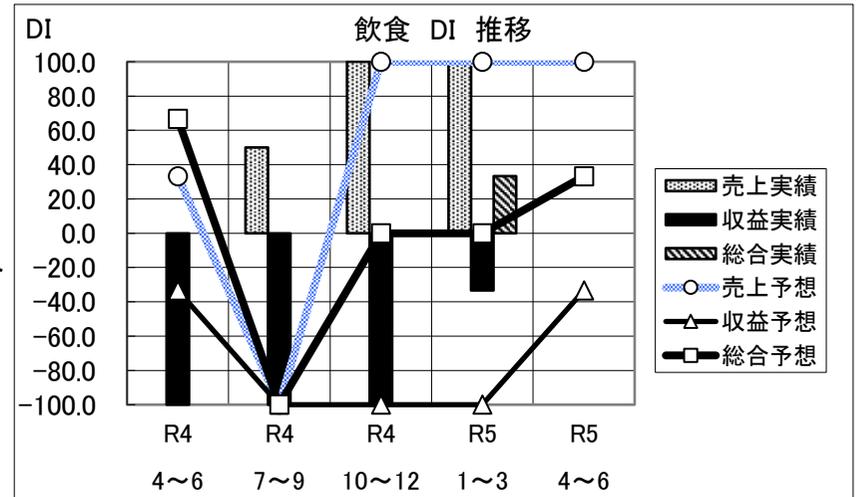
向こう3カ月の見通し

売上DI値は100.0ポイントの上昇、収益DI値は-33.4ポイントの下降、総合判断DI値は33.3ポイントの上昇となっている。新型コロナの5類引き下げで消費回復を期待したいが、物価高で儉約意識が高まり、コストアップをどう吸収するか各店舗の魅力づくりが重要。

(飲食)

(DI 単位:%)

	前年同期比 令和4年1月~3月 に比べて	前期比 令和4年10月~12月 に比べて	来期見通し 令和5年4月~6月 の見通し
①生産額・売上額	66.7	100.0	100.0
②製品・商品在庫	33.3	33.3	33.3
③資金繰り	0.0	0.0	0.0
④採算(収益)	-33.4	-33.4	-33.4
⑤従業員数(含む臨時・パート)	0.0	0.0	0.0
⑥貴社の業況(総合判断)	33.3	33.3	33.3



<業況判断DIの推移>

	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月見通し
売上	0.0	50.0	100.0	100.0	100.0
収益	-100.0	-100.0	-100.0	-33.4	-33.4
総合	0.0	0.0	0.0	33.3	33.3

【石油等その他小売】

売上DI値は16.6、前期実績(10~12月期28.6)に比して-12.0ポイントの下降、収益DI値は16.6、前期実績(10~12月期-28.6)に比して45.2ポイントの上昇、総合判断DI値は0.0、前期実績(10~12月期-14.3)に比して14.3ポイントの上昇となった。インフレ対策に伴う世界経済の減速で需要が伸び悩む一方、供給超過が都築原油価格(WTI期近物)はやや落ち着きつつあり、ロシアのウクライナ進行前より低い70ドル台前後で推移。

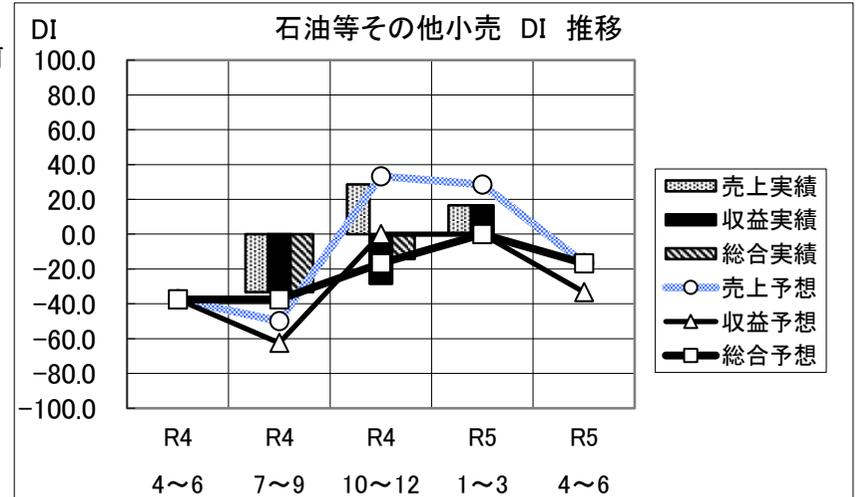
向こう3カ月の見通し

売上DI値は-16.6ポイントの下降、収益DI値は-33.3ポイントの下降、総合判断DI値は-16.7ポイントの下降となっている。

(石油等その他小売)

(DI 単位:%)

	前年同期比 令和4年1月~3月 に比べて	前期比 令和4年10月~12月 に比べて	来期見通し 令和5年4月~6月 の見通し
①生産額・売上額	16.6	16.6	-16.6
②製品・商品在庫	16.7	16.7	16.7
③資金繰り	-16.7	-16.7	-33.3
④採算(収益)	0.0	16.6	-33.3
⑤従業員数(含む臨時・パート)	16.7	0.0	0.0
⑥貴社の業況(総合判断)	0.0	0.0	-16.7



<業況判断DIの推移>

	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月見通し
売上	0.0	-33.3	28.6	16.6	-16.6
収益	0.0	-33.3	-28.6	16.6	-33.3
総合	0.0	-33.3	-14.3	0.0	-16.7

サービス業

売上DI値は-33.4、前期実績(10~12月期40.0)に比して-73.4ポイントの下降、収益DI値は-33.4、前期実績(10~12月期30.0)に比して-63.4ポイントの下降、総合判断DI値は-44.5、前期実績(10~12月期40.0)に比して-84.5ポイントの下降となった。

向こう3カ月の見通し

売上DI値は22.2ポイントの上昇、収益DI値は0.0ポイントの横バイ、総合判断DI値は33.3ポイントの上昇となっている。

サービス業

(DI 単位: %)

	前年同期比 令和4年1月~3月 に比べて	前期比 令和4年10月~12月 に比べて	来期見通し 令和5年4月~6月 の見通し
①生産額・売上額	44.5	-33.4	22.2
②製品・商品在庫	0.0	-11.1	0.0
③資金繰り	-11.1	-11.1	22.2
④採算(収益)	22.2	-33.4	0.0
⑤従業員数(含む臨時・パート)	-11.1	-11.1	22.2
⑥貴社の業況(総合判断)	33.4	-44.5	33.3

【旅館】

売上DI値は-75.0、前期実績(10~12月期66.7)に比して-141.7ポイントの下降、収益DI値は-75.0、前期実績(10~12月期66.7)に比して-141.7ポイントの下降、総合判断DI値は-75.0、前期実績(10~12月期66.7)に比して-141.7ポイントの下降となった。全国旅行支援やマスク着用緩和等で旅行需要は戻りつつある。ただ、1~3月期の宿泊者数は昨年比で100%を超える月が続くも、2019年比(コロナ以前)では50%強に留まる。春休み、大河ドラマ「どうする家康」による宿泊利用もあったが、新年会・歓送迎会等、団体客の動きは依然伸び悩み。また、三谷温泉で初のアートイベント「とどのう温泉美術館」では日帰客会や親睦利用があった。

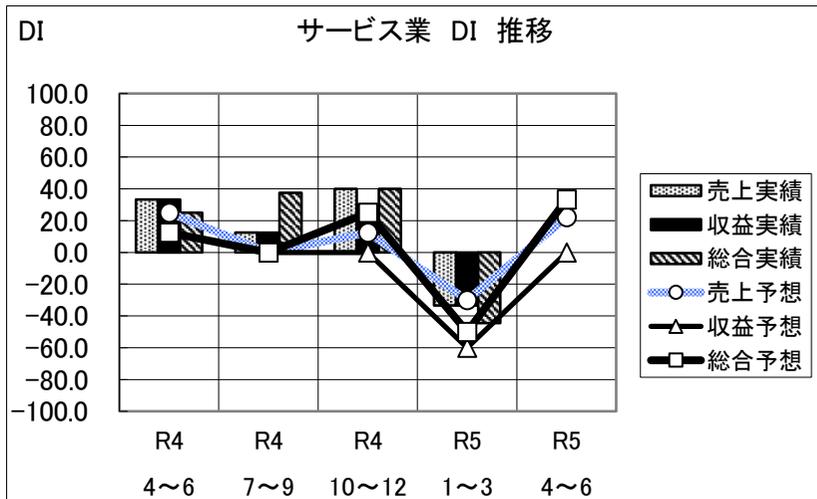
向こう3カ月の見通し

売上DI値は75.0ポイントの上昇、収益DI値は25.0ポイントの上昇、総合判断DI値は50.0ポイントの上昇となっている。5月GWの宿泊者数はコロナ前に近づく。また、潮干狩り・つつじ祭は例年よりピークが早い。個人旅行が多い事から、間際予約の割合が増加。また、規制緩和で都市部でインバウンドが増加しているが、地方への流入も見込まれ、特にアジアや欧米のFIT(個人客)に期待。一方で、人手不足がネックとなり、受入体制の理由で宿泊人数を制限する状況が続く。これまで自粛されていた総会・懇親会等のビジネス需要や、大型イベントの開催による波及効果を期待している。

(旅館)

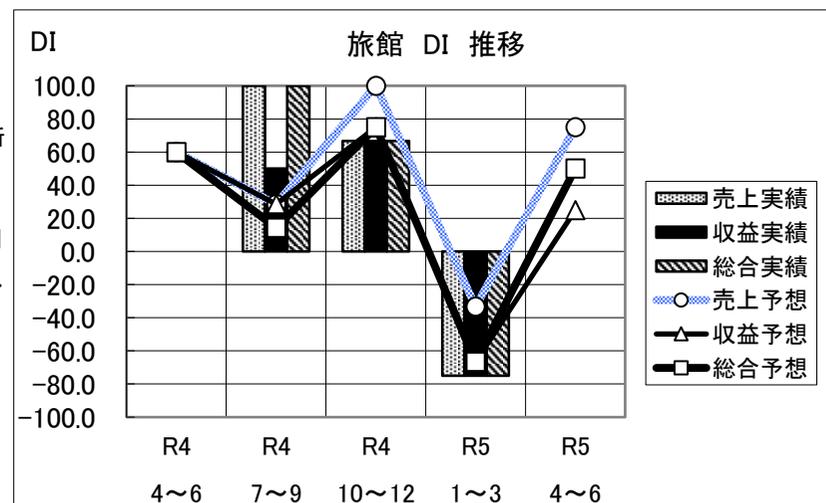
(DI 単位: %)

	前年同期比 令和4年1月~3月 に比べて	前期比 令和4年10月~12月 に比べて	来期見通し 令和5年4月~6月 の見通し
①生産額・売上額	100.0	-75.0	75.0
②製品・商品在庫	0.0	-25.0	0.0
③資金繰り	0.0	0.0	25.0
④採算(収益)	50.0	-75.0	25.0
⑤従業員数(含む臨時・パート)	25.0	25.0	50.0
⑥貴社の業況(総合判断)	100.0	-75.0	50.0



<業況判断DIの推移>

	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月見通し
売上	33.3	12.5	40.0	-33.4	22.2
収益	33.3	12.5	30.0	-33.4	0.0
総合	25.0	37.5	40.0	-44.5	33.3



<業況判断DIの推移>

	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月見通し
売上	0.0	100.0	66.7	-75.0	75.0
収益	0.0	50.0	66.7	-75.0	25.0
総合	0.0	100.0	66.7	-75.0	50.0

運輸通信業

売上DI値は0.0、前期実績(10~12月期-12.5)に比して12.5ポイントの上昇、収益DI値は12.5、前期実績(10~12月期-25.0)に比して37.5ポイントの上昇、総合判断DI値は-12.5、前期実績(10~12月期-25.0)に比して12.5ポイントの上昇となった。

向こう3カ月の見通し

売上DI値は12.5ポイントの上昇、収益DI値は0.0ポイントの横バイ、総合判断DI値は12.5ポイントの上昇となっている。

運輸通信業

(DI 単位:%)

	前年同期比 令和4年1月~3月 に比べて	前期比 令和4年10月~12月 に比べて	来期見通し 令和5年4月~6月 の見通し
①生産額・売上額	-12.5	0.0	12.5
②製品・商品在庫	-57.1	0.0	14.3
③資金繰り	12.5	0.0	12.5
④採算(収益)	12.5	12.5	0.0
⑤従業員数(含む臨時・パート)	0.0	12.5	-12.5
⑥貴社の業況(総合判断)	-25.0	-12.5	12.5

[旅客・貨物輸送・水運]

売上DI値は14.3、前期実績(10~12月期-28.6)に比して42.9ポイントの上昇、収益DI値は14.3、前期実績(10~12月期-28.6)に比して42.9ポイントの上昇、総合判断DI値は0.0、前期実績(10~12月期-28.6)に比して28.6ポイントの上昇となった。業界ごとの好不調が明確で全体的な力強さに欠ける印象。売上自体は確保できて燃料価格や人件費の増加などコスト増を訴える声が見られた。

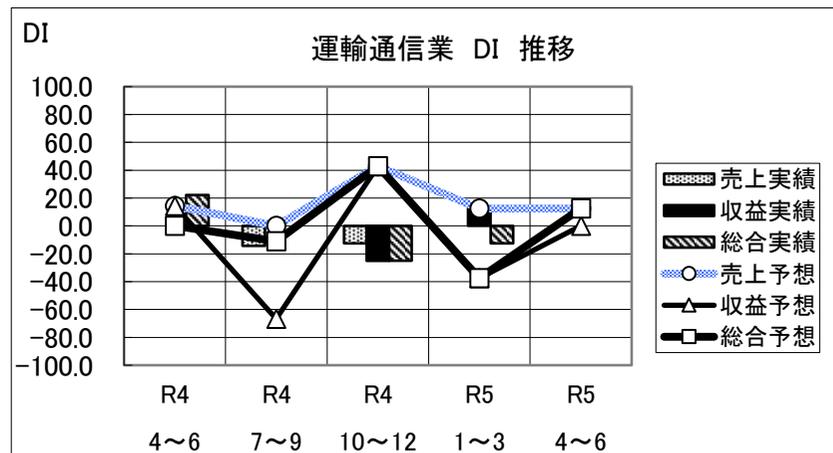
向こう3カ月の見通し

売上DI値は28.5ポイントの上昇、収益DI値は0.0ポイントの横バイ、総合判断DI値は14.3ポイントの上昇となっている。引き続き力強さにかける状況が続く見込みも、燃料・資材・人件費などコストアップに備えて、価格転嫁に限らず売上自体を拡大していく必要がある。

(旅客・貨物輸送・水運)

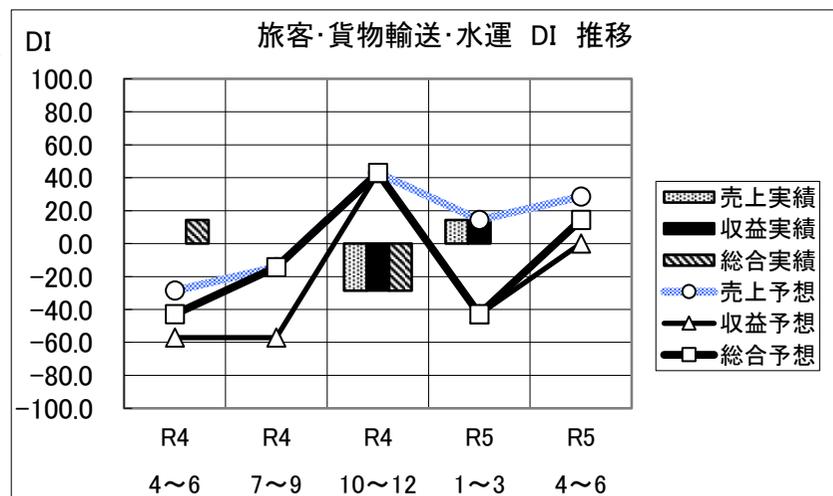
(DI 単位:%)

	前年同期比 令和4年1月~3月 に比べて	前期比 令和4年10月~12月 に比べて	来期見通し 令和5年4月~6月 の見通し
①生産額・売上額	0.0	14.3	28.5
②製品・商品在庫	-50.0	0.0	16.7
③資金繰り	14.3	0.0	14.3
④採算(収益)	0.0	14.3	0.0
⑤従業員数(含む臨時・パート)	14.3	14.3	-14.3
⑥貴社の業況(総合判断)	-14.3	0.0	14.3



<業況判断DIの推移>

	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月見通し
売上	0.0	-14.3	-12.5	0.0	12.5
収益	0.0	0.0	-25.0	12.5	0.0
総合	22.2	0.0	-25.0	-12.5	12.5

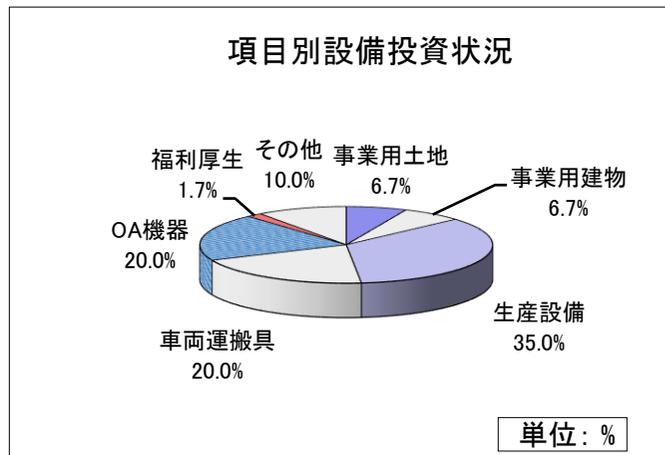
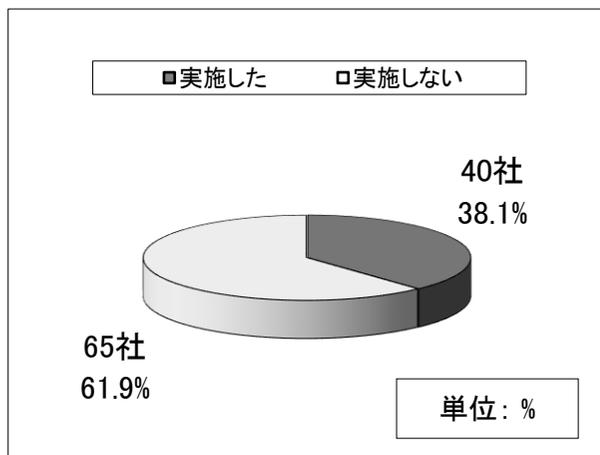


<業況判断DIの推移>

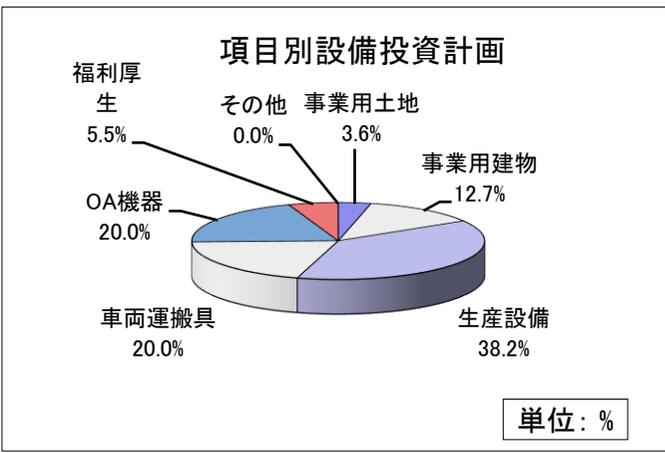
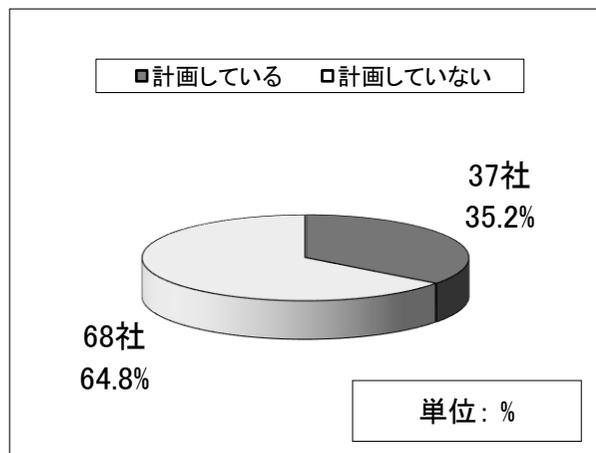
	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月見通し
売上	0.0	0.0	-28.6	14.3	28.5
収益	0.0	0.0	-28.6	14.3	0.0
総合	14.3	0.0	-28.6	0.0	14.3

7. 設備投資動向

＜今期 R5.1～3＞ 設備投資実施状況 全業種＞



＜来期 R5.4～6＞ 設備投資実施状況 全業種＞



◎設備投資・計画内容(全業種)

	今期	来期見通し
事業用土地	4	2
事業用建物	4	7
生産設備	21	21
車両運搬具	12	11
OA機器	12	11
福利厚生	1	3
その他	6	0
計	60	55

(単位:件)

◎今期・来期 設備投資実施、計画動向

		全業種	製造業	建設業	卸売業	小売業	サービス業	運輸通信業
1. 今期	R5.1～3	40	24	2	1	7	2	4
2. 来期	R5.4～6	37	23	2	2	3	2	5

(単位:事業所)

8. 経営上の問題点

項目別経営上の問題点(全業種)

(上位5項目 回答企業数 106 社)

	項目	件数 %
1	売上の停滞・減少	49 46.2%
2	原材料(燃料)高	42 39.6%
3	利幅の縮小	39 36.8%
4	人手不足	21 19.8%
5	人件費の増加	16 15.1%

(複数回答の為、総数と一致しません。)

業種別経営上の問題点

(上位3項目)

	1 位	2 位	3 位
製造業	売上の停滞・減少 49 社	原材料(燃料)高 18 社	利幅の縮小 14 社
	21 社 42.9%	36.7%	28.6%
建設業	利幅の縮小 8 社	売上の停滞・減少 3 社	人件費の増加 3 社
	4 社 50.0%	37.5%	37.5%
卸売業	売上の停滞・減少 14 社	原材料(燃料)高 8 社	利幅の縮小 4 社
	9 社 64.3%	57.1%	28.6%
小売業	売上の停滞・減少 18 社	利幅の縮小 7 社	原材料(燃料)高 5 社
	9 社 50.0%	38.9%	27.8%
サービス業	利幅の縮小 9 社	売上の停滞・減少 4 社	人手不足 4 社
	5 社 55.6%	44.4%	44.4%
運輸通信業	利幅の縮小 8 社	原材料(燃料)高 5 社	人手不足 4 社
	5 社 62.5%	62.5%	50.0%

(複数回答の為、総数と一致しません。)

付帯調査(地域データ)

No. 98

番号	調査項目	単位	R05.02報告	基準日	R05.02報告	基準日	R04.11報告	基準日	R04.08報告	基準日	出典
1	人口	人	78,443	R5.4.1	78,666	R5.1.1	78,875	R4.10.1	79,024	R4.7.1	蒲郡市市民課 住民基本台帳
	(うち外国人)		3,355		3,324		3,313		3,295		
2	世帯数	世帯	33,392	R5.4.1	33,333	R5.1.1	33,363	R4.10.1	33,374	R4.7.1	"
	(うち外国人)		1,606		1,593		1,579		1,572		
3	15才～65才生産人口	人	45,883	R5.4.1	46,020	R5.1.1	46,087	R4.7.1	46,190	R4.7.1	"
	(うち外国人)		2,746		2,705		2,678		2,592		
4	全国完全失業率	%	2.6	R5.2月	2.5	R4.11月	2.6	R4.9月	2.6	R4.5月	総務省 「労働力調査」
	愛知県完全失業率	%			1.8	R4.10～12月	2.0	R4.7～9月	2.4	R4.4～6月	愛知県 「あいちの就業状況」
5	全国有効求人倍率	倍	1.32	R5.3月	1.35	R4.12月	1.34	R4.9月	1.27	R4.6月	厚生労働省 「一般職業紹介状況(職業安定業務統計)」
	蒲郡管内有効求人倍率	倍	0.75	R5.2月	0.85	R4.12月	0.83	R4.9月	0.80	R4.5月	豊川公共職業安定所蒲郡出張所 業務月報より

全国データ

	労働			設備投資・住宅投資		GDP・景気動向指数		消費	
	完全失業者数 (万人)	完全失業率 (季調・%)	有効求人倍率 (季調・倍)	機械受注 (船舶を除く前年同月比%)	新設住宅着工 (戸数)	名目国内総生産 (兆円)	実質成長率 実質季節調整後系列(前期比)	消費支出 前年同月比%(実質)	新車販売台数(登録車) (万台)
1996年度	225	3.3	0.72	11.4	1,630,378	528.8	2.9	1.0	-
1997年度	236	3.5	0.69	▲ 3.9	1,341,347	533.4	0.0	▲ 0.2	-
1998年度	294	4.3	0.50	▲ 18.6	1,179,536	526.0	▲ 0.9	▲ 0.8	-
1999年度	320	4.7	0.49	0.6	1,226,207	521.9	0.7	▲ 1.8	-
2000年度	320	4.7	0.59	16.6	1,213,157	528.4	2.5	▲ 1.2	-
2001年度	340	5.0	0.59	▲ 12.6	1,173,170	519.2		▲ 1.7	-
2002年度	359	5.4	0.54	▲ 3.7	1,145,553	514.9	0.9	0.1	-
2003年度	350	5.3	0.64	8.2	1,173,649	517.7	2.0	▲ 1.0	588.7
2004年度	313	4.7	0.83	6.5	1,193,038	521.3	1.7	0.4	582.1
2005年度	294	4.4	0.95	5.6	1,249,366	525.6	1.0	▲ 0.4	586.2
2006年度	275	4.1	1.06	5.0	1,285,246	529.0	1.4	▲ 2.2	561.9
2007年度	257	3.9	1.04	2.3	1,035,598	530.9	1.2	0.9	532.0
2008年度	265	4.0	0.88	▲ 16.6	1,039,214	509.5	▲ 3.4	▲ 1.9	470.1
2009年度	336	5.1	0.47	▲ 15.4	775,277	492.0	▲ 2.2	▲ 0.2	488.0
2010年度	334	5.1	0.52	19.4	819,020	499.4	3.3	0.3	460.1
2011年度	284	4.5	0.65	4.2	841,246	494.0	0.5	▲ 2.2	475.3
2012年度	285	4.3	0.80	▲ 7.1	893,002	494.4	0.8	1.1	521.0
2013年度	265	4.0	0.93	10.6	987,254	507.3	2.6	1.0	569.2
2014年度	236	3.6	1.09	8.0	880,470	518.2	▲ 0.4	▲ 2.9	529.7
2015年度	222	3.4	1.23	▲ 1.2	920,537	532.9	1.3	▲ 2.3	493.8
2016年1月	215	3.2	1.28	▲ 11.3	67,815			▲ 3.1	23.7
(平成28年)2月	217	3.3	1.28	▲ 6.7	72,831	135.8	0.7	1.2	27.5
3月	214	3.2	1.30	9.8	75,744			▲ 5.3	40.4
4月	214	3.2	1.34	▲ 1.1	82,398			▲ 0.4	21.2
5月	212	3.2	1.36	▲ 7.3	78,728	134.2	▲ 0.2	▲ 1.1	22.3
6月	208	3.2	1.37	1.3	85,953			▲ 2.2	28.7
7月	201	3.1	1.37	▲ 4.2	85,208			▲ 0.5	28.1
8月	208	3.1	1.37	0.2	82,242	132.6	0.2	▲ 4.6	22.3
9月	202	3.0	1.38	▲ 4.5	85,622			▲ 2.1	31.7
10月	198	3.0	1.40	▲ 10.9	87,707			▲ 0.4	24.2
11月	200	3.1	1.41	24.5	85,051	141.6	0.2	▲ 1.5	27.3
12月	202	3.1	1.43	17.3	78,406			▲ 0.3	26.4
2017年1月	202	3.0	1.43	10.7	76,491			▲ 1.2	25.8
(平成29年)2月	192	2.8	1.43	▲ 0.7	70,912	136.2	0.8	▲ 3.8	31.2
3月	187	2.8	1.45	▲ 12.5	75,887			▲ 1.3	46.0
4月	187	2.8	1.48	▲ 0.2	83,979			▲ 1.4	22.4
5月	206	3.1	1.49	8.6	78,481	136.0	0.3	▲ 0.1	23.7
6月	190	2.8	1.51	3.4	87,456			2.3	31.5
7月	189	2.8	1.52	10.5	83,234			▲ 0.2	27.8
8月	185	2.8	1.52	19.7	80,562	135.7	0.8	0.6	23.3
9月	188	2.8	1.52	7.6	83,128			▲ 0.3	31.8
10月	184	2.8	1.55	12.3	83,057			0.0	23.1
11月	180	2.7	1.56	5.8	84,703	144.4	0.1	1.7	25.8
12月	181	2.8	1.59	▲ 6.6	76,751			▲ 0.1	26.2
2018年1月	164	2.4	1.59	8.7	66,358			2.0	24.3
(平成30年)2月	170	2.5	1.58	7.8	69,071	138.9	0.1	0.1	29.6
3月	172	2.5	1.59	▲ 2.8	69,616			▲ 0.2	43.8
4月	172	2.5	1.59	11.4	84,226			▲ 1.3	22.5
5月	155	2.2	1.60	15.3	79,539	137.9	0.3	▲ 3.9	23.6
6月	167	2.4	1.62	▲ 4.2	81,275			▲ 1.2	29.2
7月	170	2.4	1.63	11.3	82,615			0.1	28.1
8月	166	2.4	1.63	4.9	81,860	135.2	▲ 0.5	2.8	23.3
9月	161	2.3	1.64	▲ 5.4	81,903			▲ 1.6	30.8
10月	166	2.4	1.62	6.1	83,330			▲ 0.3	26.1
11月	169	2.5	1.63	4.0	84,213	144.4	▲ 0.1	▲ 0.6	27.9
12月	164	2.4	1.63	▲ 4.0	78,364			0.1	25.0
2019年1月	172	2.5	1.63	▲ 8.5	67,087			2.0	24.9
(平成31年)2月	160	2.3	1.63	▲ 3.7	71,966	138.8	0.2	1.7	30.0
3月	174	2.5	1.62	▲ 0.2	76,558			2.1	41.7
4月	168	2.4	1.63	▲ 6.0	79,389			1.3	23.0
(令和元年)5月	162	2.4	1.62	▲ 10.1	72,581	138.4	0.3	4.0	24.7
6月	161	2.3	1.61	0.9	81,541			2.7	29.0
7月	154	2.2	1.59	▲ 10.6	79,232			0.8	30.0
8月	154	2.2	1.59	0.9	76,034	136.8	0.2	1.0	24.2
9月	167	2.4	1.58	▲ 6.4	77,915			9.5	34.7
10月	166	2.2	1.58	▲ 8.8	77,123			▲ 5.1	19.2
11月	151	2.2	1.57	▲ 15.2	73,523	143.7	▲ 2.7	▲ 2.0	23.8
12月	145	2.2	1.57	▲ 7.9	72,174			▲ 4.8	22.6
2020年1月	159	2.3	1.49	▲ 0.8	60,341			▲ 3.9	22.1
(令和2年)2月	159	2.4	1.45	▲ 7.7	63,105	137.7	0.4	▲ 0.3	26.8
3月	176	2.5	1.39	0.1	70,729			▲ 6.0	37.4
4月	189	2.6	1.32	▲ 10.1	69,162			▲ 11.1	17.2
5月	198	2.9	1.20	▲ 20.9	63,839	126.6	▲ 7.9	▲ 16.2	14.7
6月	195	2.8	1.11	▲ 22.4	71,101			▲ 1.2	21.4
7月	197	2.9	1.08	▲ 17.9	70,244			▲ 7.6	23.9
8月	206	3.0	1.04	▲ 17.0	69,101	131.2	5.6	▲ 6.9	19.7
9月	210	3.0	1.03	▲ 1.5	70,186			▲ 10.2	29.3
10月	215	3.1	1.04	▲ 1.2	70,685			1.9	25.3
11月	195	2.9	1.06	1.3	70,798	143.3	1.9	1.1	25.3
12月	194	2.9	1.06	18.7	65,643			▲ 0.6	24.3
2021年1月	197	2.9	1.10	▲ 1.0	58,448			▲ 6.1	23.6
(令和3年)2月	194	2.9	1.09	39.8	60,764	136.2	▲ 0.2	▲ 6.8	26.2
3月	188	2.6	1.10	▲ 5.4	71,787			6.2	38.4
4月	209	2.8	1.09	14.7	74,521			13.0	21.0
5月	211	3.0	1.09	41.1	70,178	135.7	0.3	11.6	19.3
6月	206	2.9	1.13	35.5	76,312			▲ 5.1	23.4
7月	191	2.8	1.15	43.9	77,182			▲ 0.7	23.4
8月	193	2.8	1.14	20.6	74,303	44.3	▲ 0.4	▲ 3.0	20.6
9月	192	2.8	1.16	12.6	73,178			▲ 1.9	20.5
10月	183	2.7	1.15	28.3	78,004			▲ 0.6	17.6
11月	182	2.8	1.15	24.7	73,414	144.0	1.1	▲ 1.3	21.9
12月	171	2.7	1.16	17.6	68,393			▲ 0.2	21.8
2022年1月	185	2.8	1.21	20.0	59,690			6.9	20.7
(令和4年)2月	180	2.7	1.22	▲ 16.8	64,614	137.4	▲ 0.5	1.1	21.3
3月	180	2.6	1.22	14.3	76,120			▲ 2.3	32.7
4月	188	2.5	1.23	25.4	76,294			▲ 1.7	17.8
5月	191	2.6	1.27	13.2	67,193	137.5	1.2	▲ 0.5	16.1
6月	186	2.6	1.27	15.7	74,596			3.5	19.7
7月	176	2.6	1.29	4.8	72,981			3.4	21.4
8月	177	2.5	1.32	6.5	77,712	134.8	▲ 0.3	5.1	17.9
9月		2.6	1.34	7.9	73,920			2.3	24.2
10月	183	2.6	1.35	▲ 5.7	76,590			1.2	21.1
11月	182	2.5	1.35	▲ 4.6	72,372	146.3	0.0	▲ 1.2	22.1
12月	171	2.5	1.35	▲ 4.7	67,249			▲ 1.3	20.9
2023年1月	197	2.4	1.35	▲ 11.7	63,604			▲ 0.3	22.9
(令和5年)2月	194	2.6	1.34	▲ 1.5	64,426			1.6	26.9
3月	188		1.32		73,693				37.8

(内閣府)

(国土交通省)

(内閣府)

(総務省)

(自販連統計)